Ⅴ　令和4年度　学校自己評価　まとめ（成果と課題）

※教職員自己評価　◎できている(4)　○概ねできている(3)　△あまりできていない(2)　▲できていない(1)

（1）教育課程・学習指導

1．道徳の時間が確保され、年間指導計画にもとづいて適切な内容で実施されているか。

○ アンケートの数値

教職員　行事前に授業変更を行ったため、年間計画通りにはいかないことがあった。

生　徒　昨年度より評価が下がっているが、ICTを活用した授業実践は取り入れている。

保護者　前年度よりも若干評価が下がった。

	評価	
	R3	R4
教職員	***3.38***	3.18
生　徒	***3.59***	3.43
保護者	***3.28***	3.26

○ まとめ（成果と課題）

☆ 時間が確保され年間指導計画を変更しながら、ICTを活用した授業展開が図られている。

☆ 別葉を検証・修正する。（各学年・各教科担当が検証し、道徳担当が年度末にまとめる）

★ ICTを取り入れ、「考え・議論する」授業展開を行ったが、「個」で考えるにとどまってしまい、他との「議論」にまで発展しない場合がみられた。

★ 昨年より「学校行事」開催が増えたため、「年間指導計画」に完全に沿った形ではできなかった。

2．①確かな学力の定着に向けて、授業改善を図っているか。

教職員　全職員でICTを有効的に活用し、よりよい授業実践への取組を図っているため、前年度よりも評価が上がった。

生　徒　前年度より若干評価が下がったが、先生は学習習慣が身につくように授業や宿題の出し方を工夫していると見ている生徒の割合は高い。

保護者　ICTを活用しながら授業を改善し、学力向上に取り組んでいることもあり、評価が上がった。

	評価	
	R3	R4
教職員	3.25	3.36
生　徒	***3.63***	3.59
保護者	3.31	3.38

○ まとめ（成果と課題）

☆ 生徒が毎時間記入する自己評価シートで理解度・課題点の確認をし、その後に生かしている。

☆ ICT機器の利用と思考・判断・表現力の育成を重視した学習やテスト作成に力を入れている。

☆ 生徒達が自ら学びたい・知りたい・考えたいと思う学習課題（ICTの活用も含めて）を工夫してい

★ ICTの活用しての授業には、生徒個々のスキル（機器の操作）に差があるため、授業を進めることが優先されてしまうと、じっくり時間をかけて丁寧に教えたいところが、時間をかけられない。それにより生徒へのフォローが、時間的・環境的に十分にできなかった。

②学習ルールの徹底や学習習慣の定着化を図っているか。

教職員　昨年と評価は変わらないが、学習ルールや学習規律に対する意識は高い。

生　徒　学習習慣（特に家庭学習）がまだ身についていないと感じている生徒もいる。

保護者　生徒の家庭学習が、30分程度かそれ以下しかしていないと約40パーセントの保護者が答えている。

	評価	
	R3	R4
教職員	3.33	3.33
生　徒	3.44	3.51
保護者	3.25	3.29

【平日の学習時間】

R3	2時間以上	1時間以上	30分程度	ほとんどしない
生徒	27.6	46.7	13.6	12.1
保護者	22.0	41.0	25.6	11.5

R4	2時間以上	1時間以上	30分程度	ほとんどしない
生徒	29.9	44.3	21.6	7.2
保護者	19.7	40.5	29.3	13.5

○ まとめ（成果と課題）

☆ 学校・学年生徒会と連携した学習規律の取組、家庭学習の手引き等を用いた学習習慣の定着ができている生徒が多い。自主学習ノートの提出も習慣化できている。

☆ 授業規律や授業の受け方について細かく指導し、落ち着いている。

★ 本校として「学力向上」の取り組みが5年経ったが、家庭学習の更なる定着に向けて、内容や方法を検討し質を高める必要がある。

★ 毎日チェックしているが、宿題や自主学習ノートが提出できない生徒がいる。

3．①②学習のはじめに先生は、見通し(めあて)を黒板などに明記し、授業の最後には振り返りの時間を設けている。

教職員　授業での見通し・振り返りが定着してきた。

生　徒　先生は毎時間、見通し（めあて）を黒板などに明記し、授業の最後には振り返りを行っている。

	評価		
	R3	R4	
教職員	3.6	3.73	見通し
教職員	3.16	3.33	振り返り
生　徒	*3.55*	3.37	

○ まとめ（成果と課題）

①☆ 授業開始には「学習のめあて」を提示し、本時の学習内容や目標を確認して生徒の意識付けができた。

☆ 授業のルーティンとして定着できている。

☆ 校内研の柱としての「動き出したくなる課題」と自己学習カードやタブレットをへ活用しながら取り

★ 見通し（めあて）の提示が生徒のものになるよう、さらに工夫していきたい。

②☆ 自己学習カードやタブレットを活用し、工夫を凝らしながら振り返りを行っている。

☆ 授業を振り返ることで、確実に学力の定着につながっている。

☆ 授業終了時には、振り返りをおこない、各自の「自己学習カード」や「タブレットを活用して」振り返

☆ 生徒のコメント内容で、授業の改善を図ることができた。

☆ 授業のルーティンとして定着できている。

★ 実習や実験などの時間においては、時間の確保が難しいときがある。また、個々にタブレットのスキルが違うため、時間内での終了が厳しい場合もあった。

★ 振り返りを「次時の授業」や「家庭学習」に生かすような学習内容の工夫・改善をしたい。

(2)キャリア教育

4．3年間を見通した指導内容が設定され、指導計画が立案されるなど、進路指導体制が整備されているか。

教職員　「キャリアパスポート」を利用しながら取り組んでいる。

生　徒　進路学習に積極的に取り組んでいる。

保護者　学年に応じたきめ細かい進路指導をしている。

	評価	
	R3	R4
教職員	*3.31*	3.28
生　徒	3.54	3.60
保護者	3.18	3.22

○ まとめ（成果と課題）

☆ まだ、コロナ禍ではあるが、昨年度に比べて年間計画通りに実施できることが増え、見通しをもって進路学習ができた。

☆ 学年で同一歩調にてキャリアパスポートを使用し、資料を活用しながら学習を進められた。

☆ 進路について本人や保護者と確認し、話し合いが持てるよう心掛けた。

★ コロナ禍で中止となっている職業講話や職場体験などが実施できず、変わりとなるものを考えたい。

★ 3年間を見通した指導内容は確立できたが、確実な実施まではできていない。

(3)生徒指導

5. いじめへの取組、挨拶の励行、きまりや時間を守る等豊かな人間関係づくりに向けた指導を行っているか。

◎ 教職員　昨年より若干評価が上がった。

生　徒　昨年より評価が下がった。

保護者　おおむね良好であると答えており、若干前年度よりも評価が上がった。

	評価	
	R3	R4
教職員	3.49	3.51
生　徒	***3.48***	3.43
保護者	3.27	3.31

※各項目の平均値

↑

		評価	
		R3	R4
生徒項目	私は、思いやりの心を持って人に接している。	***3.41***	3.36
	私は、いじめや困っている人がいると助ける。	***3.37***	3.34
	私は、あいさつをしっかりしている。	***3.53***	3.42
	先生の指導や助言の内容は、もっともなことだと思う。	***3.54***	3.42
	先生は、困ったことなどがあったとき相談に応じてくれる。	3.58	3.58
	私のクラスは、きまりを守り、励まし、認め、高め合う学級だ。	3.43	3.46

		評価	
		R3	R4
保護者項目	我が子には、思いやりの心が育っている。	***3.43***	3.41
	我が子は、いじめや困っている人がいると助けることができる。	3.21	3.21
	我が子は、あいさつをしっかりしている。	3.29	3.37
	教員は、生徒の抱える問題に対して、適切な指導や助言をしている。	3.15	3.27
	学級や学校では、きまりを守り、励まし、認め、高めあっているといえる。	3.30	3.31

○ まとめ(成果と課題)

☆ 日頃から生徒の人間関係を把握しながら、その場で気づいたことを指導・支援し、生徒が気持ちよく学校生活を送れるような環境作りに心がけた。

☆ 生徒会活動を中心に学校生活向上について取組、生徒自身が意識しできるよう指導した。

☆ 日々の生活ノート、生徒同士の関係や会話など教師側はアンテナを高くして、学年全体で取り組

☆ 決まりや時間を守る意識が、学校全体に高くなってきている。

★ コロナの関係で生徒の活動が制限されているが、生徒会や委員会を中心にあいさつの励行を進

★ コロナ禍で生徒と触れ合う時間(生徒理解に充てる時間)が制限されていたため、今後に向けて、生徒とのコミュニケーションが図れるような取組を行っていく。

★ いじめや不登校など素早い対応、保護者や関係機関と連携しながらの取組が必要である。また、安心して登校できる環境を作っていきたい。

(4)安全管理

6. 防災・防犯対策について、生徒・職員が理解し、危機管理意識の高揚がみられるか。

教職員　前年に比べると評価が下がっている。

生　徒　前年に比べると評価が上がっており、避難訓練等に真剣に取り組んでいる。

保護者　R1年度に比べると評価は上がっている。

	評価	
	R3(R1)	R4
教職員	***3.16***	3.10
生　徒	3.81	3.84
保護者	3.40	3.48

※保護者はR1のデータ

○ まとめ（成果と課題）

☆ 避難訓練通学路点検が定期的に行われている。

☆ 各種訓練の様子から防災に対して意識された行動がとられているように思う。

☆ 防災担当が中心となって計画的に実施している取り組みが危機管理意識の高揚に役立ってい

★ 本年度は、起震車体験や煙発生時における避難体験、不審者対応訓練などは行うことができなかった。実際に緊急的なことが起こった場合にしっかり対応できるよう実施していきたい。

★ 防災訓練を通して、避難時の形態については概ね理解はされているが、避難誘導、負傷者の救助、不明者の捜索等、職員内における役割分担の明確化を徹底していく必要がある。

7. 交通ルール・マナーについて、生徒・職員が理解し、ルール遵守やマナー意識の高揚がみられるか。

教職員　昨年より若干評価が上がっているが決して高くはない。

生　徒　昨年より若干評価が下がっているが、意識は高い方である。

保護者　昨年より若干評価が上がっている。

	評価	
	R3	R4
教職員	3.22	3.23
生　徒	***3.82***	3.80
保護者	3.41	3.48

○ まとめ（成果と課題）

☆ 登下校時の校門指導、保護者と連携した安全指導、通して、交通ルール・マナーの指導が行われている。生徒の横断報道をしっかりと渡す姿があります。

☆ 生徒は、地域住民からの苦情ものなく交通ルールやマナーを守っている。できれば来年は、交通

☆ 本年度も、全校体制による自転車点検は徹底されている。

☆ 本年度は、リモートによる「ネットモラル（SNSも含む）教室」を実施した。

★ 学校付近の登下校の様子からは、安全への意識もあり行動も現れているが、学校付近以外の場所での行動については違いがあると感じている。今後は、生徒の自発的な行動ができるように内面的な成長ができる取組を考えていきたい。

★ 朝の車の多い場所での歩行や登下校時に多い生徒の並列歩行など、今後も交通安全指導を徹底していかなければならない。

（5）特別支援教育

8. コーディネータを中心に、特別支援学級と交流学級、学年との連携を密にとり、生徒相互が学び合える環境を整えているか。

教職員　昨年度より評価が下がっており、スムーズな連携を図っていく必要がある。

生　徒　昨年度より評価が下がっており、特別支援の生徒に対する生徒理解を深めていく必要がある。

保護者　昨年より若干評価が上がっている。

	評価	
	R3	R4
教職員	***3.34***	3.1
生　徒	***3.53***	3.42
保護者	3.31	3.35

○ まとめ（成果と課題）

☆ コーディネータを中心に情報交換が密に図られている。

☆ 特別学級の個々の生徒への対応はざまざまであり、難しさもあるので。職員会議や学年会議などで共通理解をおこない、教員間での情報交換をしっかりと行えるよう心掛けた。

☆ 特別支援学級担任以外に、特別支援学級に担当職員と特別支援教育支援員が加わることで、互いに連携して生徒に関わりをもって指導にあたることができた。

★ 交流学級での活動はよいできているが、特別支援学級独自の活動が必要となる場面もあるので、特別支援学級担任と学級担任・教科担任との情報共有や学年・学校内での情報共有がさらに望まれる。

(6)組織運営

9. 教務と各学年、学年相互、各分掌相互の連絡・調整がとれて、組織として活力があり、意思の疎通がとれているか。

教職員　昨年に比べ評価が下がっている。

保護者　昨年に比べ若干評価が上がっている。

	評価	
	R3	R4
教職員	*3.34*	3.10
保護者	3.31	3.32

○ まとめ(成果と課題)

☆ 学年間、職員間、各分掌の壁がなく、意思の疎通を取りやすい。また、困った時に必ず相談するようにしいており、情報報交換しやすい環境にある。

☆ コミュニケーションは密にとれていた。

★ 学年を超えた連携、分掌ごとの調整のための話し合いの時間が不十分であり、対応が遅れるとき

★ 月曜日の朝の打合せに全職員が参加できないため、当初の予定から急な変更があった場合に「情報も漏れや連絡不足」が生じてしまったときもあった。「紙ベース版」や「連絡の木(富竹連絡データ版)」での連絡を日常化し、「報連相」の徹底をしたい。

(7)教育目標・学校評価

10. ① 重点目標が学校教育目標、学校経営方針を反映し学校の課題の改善にふさわしいものになっているか。

教職員　昨年に比べた若干評価は下がったが、学校の課題にふさわしい重点目標になっていると回答して

	評価	
	R3	R4
教職員	*3.55*	3.53

②重点目標に向かって、担当者会議が機能し、全職員が改善策に具体的に取り組んでいるか。

教職員　学校の重点目標に向かって取り組んでいると回答した割合が、上がっている。

	評価	
	R3	R4
教職員	3.27	3.35

○ まとめ(成果と課題)

☆ 重点目標は、具体的でわかりやすく、生徒や学校の実態に即した目標になっている。

☆ 重点目標や改善策は本校の教育目標や経営方針を十分に反映していると考える。

☆ 学校評価について、自己評価の分析や生徒・保護者アンケートをもとに、職員会議等で検討し、改善にむけて取り組んでいる。

★ 各自で分掌の確認をして責任を持って取組、成果や課題を明確にしたい。

★ 分掌ごとの学校評価担当者会議を行う時間を設定することができなかった

★ 教職員全員で、学校目標及び重点項目達成に向けて「意識」して、同じ方向を向き、生徒のために努力していきたい。

(8)保護者・地域との連携

11. 開かれた学校の推進のために、学校情報の発信・提供ができ、保護者・地域との相互交流が図られているか。

教職員　コロナ禍で、十分な連携ができず、評価は下がっている。
生　徒　コロナ禍で地域の行事が中止となったためアンケート実施なし。
保護者　保護者・地域との連携が低くなっている。

	評価	
	R3	R4
教職員	*3.38*	3.31
生　徒	*3.33*	3.24
保護者	*3.35*	3.32

※各項目の平均値
↑

	評価	
	R3	R4
生徒項目　私は、学級通信、学年通信、学校だより等のお知らせを家の人に見せている。	3.44	3.46
私は、学校の話や、いろいろな話題で家庭で会話をする。	*3.30*	3.11
私は、家で家族の手伝いをする(例･･･買い物、炊事、洗濯、風呂掃除)	*3.26*	3.16
私は、地域の行事に参加している。		

	評価	
	R3	R4
保護者項目　学校は、学校だより・学年通信・学級通信・HP等で、情報提供を行っている。	3.47	3.50
学校は、家庭や地域と協力・連携して、学校運営をしている。	*3.37*	3.32
授業参観や親子愛校作業、「No TV・ゲーム・スマホ day」等に積極的に参加・協力している。	*3.26*	3.15
学校は、保護者の意見や要望に耳を傾けている。	3.28	3.32

○ まとめ(成果と課題)

☆ 学校だより、学年・学級だよりで積極的に情報を発信することができている。
☆ コロナ禍の中でも様々な工夫をしながら保護者との連携を図ってきた。
☆ コロナ禍がまだ治まらない中ではあったが、少しずつ会って話をする機会が増え、保護者との連携を図ることができた。
☆ 各種通信や行事は開かれた学校を示すものになっていたと思う。
★ 今年度もコロナ禍が収束せず、地域との交流がほとんどできていない。
★ コロナ影響もあり、学校と保護者のつながりを比較すると薄くなってしまっている。
★ ホームページや安心メール等の情報発信の活用をさらに積極的、計画的に進める必要がある。
★ 情報発信への努力は、継続して行っているが、コロナ禍が収束しないこともあり、学校行事・学校開放に制限がかかってしまうのが残念であった。

【用語について】

別葉	なお，全体計画を一覧表にして示す場合は，必要な各事項について文章化したり，具体化したりしたものを加えるなどの工夫が望まれる。例えば，各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を整理したもの，道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの，道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを別葉にして加えるなどして，年間を通して具体的に活用しやすいものとすることが考えられる。（中学校学習指導要領解説「道徳編」p.69） 決められた形式はなく，① 各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を整理したもの，② 道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの，③ 道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものが例示されている。
学習プロジェクト	定期テスト前に学年教科ごとに取り組んでいる学力向上対策。学習習慣の定着や補習的な意味合いも持つ。
項目別担当者会議	学校評価項目8項目のそれぞれの担当者グループによる打合せ会議。
分掌(校務分掌)	学校の教職員が学校教育の目標を実現するため，校務を分担して遂行していくこと。
見通し・振り返り	児童・生徒が「学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる」ことが学習指導要領の「総則」にある。この活動により，学習意欲の向上と併せて，学習内容の確実な定着や思考力・判断力・表現力等の育成の観点からも有効であり意義あるものと考えられている。
学力向上タイム	学力向上のために，学年で教科を決めて行う学習の定着への取組。全教員が全教室に入り指導を行う。特に5教科の担当は実施する学年のクラスに入って指導を行うため，学年を超えて指導を受けることができる。年に8回実施し。25分・25分の2回連続で行い授業1時数にカウントする。